

VI 家庭と幼児に関する研究

××××××××××××××××××××××××

幼児に対する母親の

「期待」について

(知能と性格に関する理解と態度の調査)

愛育研究所 高橋種昭

目的、方法 今回の調査は、母親達が幼児の性格や知能の発達をどのように理解し、どのような期待を持って接しているかを見、それらのものが母親の属している社会的階層、或いは地域社会により、どのように違っているかを見ることを主たる目的とし、質問紙により、ABCの三つの母親集団を対象に行なった。Aグループは東京近県の中都市の幼稚園児の母親、Bグループは東京都の幼稚園児で来年に私立小学校や国立大付属小学校を希望するもの、Cグループは東京都の保育園児で措置児童の母親で構成されている。質問項目は、性格に関したものは、子どもの性格の中で最も心配になるものは何か、子どもの性格はどのようにしてきたと思うか、現在の性格は将来変えると思うか、の三項目、知能に関したものは、子どもの知能段階を五段階に評価させたもの、就学前にはどの程度の数や文字を知っておかなくてはならないと思うか、などの項目である。

結果の考察 母親が最も心配している子どもの性格については、各階層、地域を通じて「非社会的態度」「引込思案」など消極的態度をあげるものが最も多いが、この事は我国の幼児を取巻いている文化の中に、このような型で社会に適應出来ない人間を生み出す条件が多く存在している事を示すものといえよう。

性格は生れつきのものか、或いは環境によるものかについては、環境的要因を重視するものが多く、「生れつき」と素質のみに考えるものは低い階層にや多くみられるが、その数は非常に少ない。親譲りのものとして諦めてしまう傾向が少ないという事は喜ばしい傾向である。「生れつき」という考え方からは建設的な努力は生れて来ない。

性格は将来どのように変るかについては、「少しは変る」と現在の性格が大部分将来に持ち越されると考えている母親達が各階層、地域を通じて最も多くみられる。このように幼児期の性格を重視する母親が多く存在する事は、一面においては結構な事と言えるが、同時に「もう大きくなっているからだめだ」と諦める母親や、「早くよくしなくては」と焦る母親を数多く作り出している点では問題である。

知能の発達段階の評価に関しては、大体において正しく評価しているが、知能の高い子どもはより低く、低い子どもはより高く評価されている傾向がみられ、Aグループの母親に特にこの傾向が著しい。

数字に対する要求では、階層による差より地域による差が大きく、「百以上の数を入学前に知っておかなくてはならない」と答えたものがAグループとB、Cグループとはかなりの差がみられ、BグループとCグループ、つまり東京都のグループ間には有意差は認められない。このように階層差がみられないのは、低い階層においては日常の生活の中に案外多く数と接する機会が多い為ではないかと考えられる。

字に対する要求では、数の場合と異り、地域差より階層差が大きく、AグループとBグループの間にも一応の差は認められるが、BグループとCグループの間の差が最も大きい。字の場合は数と異り、生活の文化的水準の差が最もはっきりあらわれたものとみられる。

結び これらの結果からもみられるように、母親の幼児に対する期待や態度も、母親の属する所属集団によりかなりの差がみられる。これらの差が将来社会的性格というものの階差による差、地域による差を作り出してゆくものと考えてよいのではなからうか。

(大会発表論文抄録85「87頁)

親の育児態度と幼児のパーソナリティに関する心理学的研究(その1)

(親の態度の変容性について)

京都・立命館大学 守屋光雄
 姫路工業大学 釘宮冨子
 神戸・幼年教育研究 辻本弘明
 所付属幼稚園 和田世子・岡宗美枝子

幼児期の性格形成に心理的環境としての親の態度は極めて重要な要因を含んでいる。われわれはこれらの親子関係の諸要因の一つとみなされる親の態度の変容性について測定、同時に幼児の人格形成との関連性を考察しようとする。

手続きとしては、対象に神戸・幼年教育研究所付属幼稚園一年保育児を選び、田研式親子関係診断テストを使用。保育者を通じて両親に配布。調査は一九五九年五月、一九六〇年三月の二回。調査人員は男児三十三例、女児三十九例。社会経済的に中流のものが多く、商業、技術業、事務的職業が大部分で少数が専門的職業。

結果 調査I(五月施行のもの)調査II(三月施行のもの)の各類型別得点をパーセントイルに換算し、ついでこれらの基礎資料よりの頻数分布状態より大体の傾向を求め、一方、調査I、IIの変容性を探るためにそれぞれのパーセントイルをT得点に換算し、各類型ごとの平均値、標準偏差を求めてt検定を行なった。(抄録第二表

よくなった例(調査Iよりみた調査IIの%Δ変容をダイヤグラムで表す)

